

総合治山（保安林改良）の実行結果について

莊川営林署 内藤治夫・柴田修身

軒端信司

1. はじめに

当署管内の大白川流域は、保安施設の充実に加えて、保健休養の場として、環境の保全整備など多面性を含んだ森林地帯であることから、昭和60年度に流域保全総合治山事業が計画された。そして事業計画の一部である御母衣ダム建設用地として利用された跡地一帯を保安林改良事業として、3ヶ年計画で整備を進めてきたところ、ほぼ完成したので、その事業内容を発表する。

2. 施工地の概要（図-1、別紙位置図参照）

施工地は平瀬集落から、大白川沿いに県道白山公園線を1.4km進んだ地点である。

施工場所 大白川国有林353林班

施工面積 2.61ha

標高 1,200～1,230m

地形 火山性台地

地質 白山火山噴出物

土壤 BD型

気象 裏日本気候

降水量 2,200～3,200mm

積雪 2.5～4.5m（豪雪地帯）

保安林種 土砂流出防備保安林と保健保安林の兼種保安林

公園名等 白山国立公園、白山白川自然休養林内

觀光施設 白水の滝、温泉施設、白水湖

林相 林縁部は樹齢20年を超えるブナ、ナラ、ヒノキなど高木が、わずかの巾で残り、その内部はカエデ、ハンノキなど低木がほとんどで、雪圧を受け貧弱である。

3. 現況特性と整備方針（表-1、別紙参照）

施工地の林分内容を検討し、現況特性別に6タイプに区分し、整備方針を決定した。

4. 施工方法

施工方法は整備方針より工種を決定した。

(工種別)

- (1) 作業歩道……施工後、散策コースとして利用できるよう作設し、勾配の急な箇所は丸太階段工とした。
- (2) 立木整理……根曲木と折損木を中心に整理伐採した。
- (3) 地拵……雑草木など植付作業に障害となる地床植物その他のものを除去した。
- (4) 植栽工……空間地と歩道沿いに、自然環境を大きく変えないように林地保全した。
- (5) 下刈……植栽地の雑草木を刈払いした。
- (6) 標識設置……①案内板 ②指導標
 ③樹名板 ④石碑

以上これらの事業に3年間で約2,400万円投資した。

5. 施工地の特徴

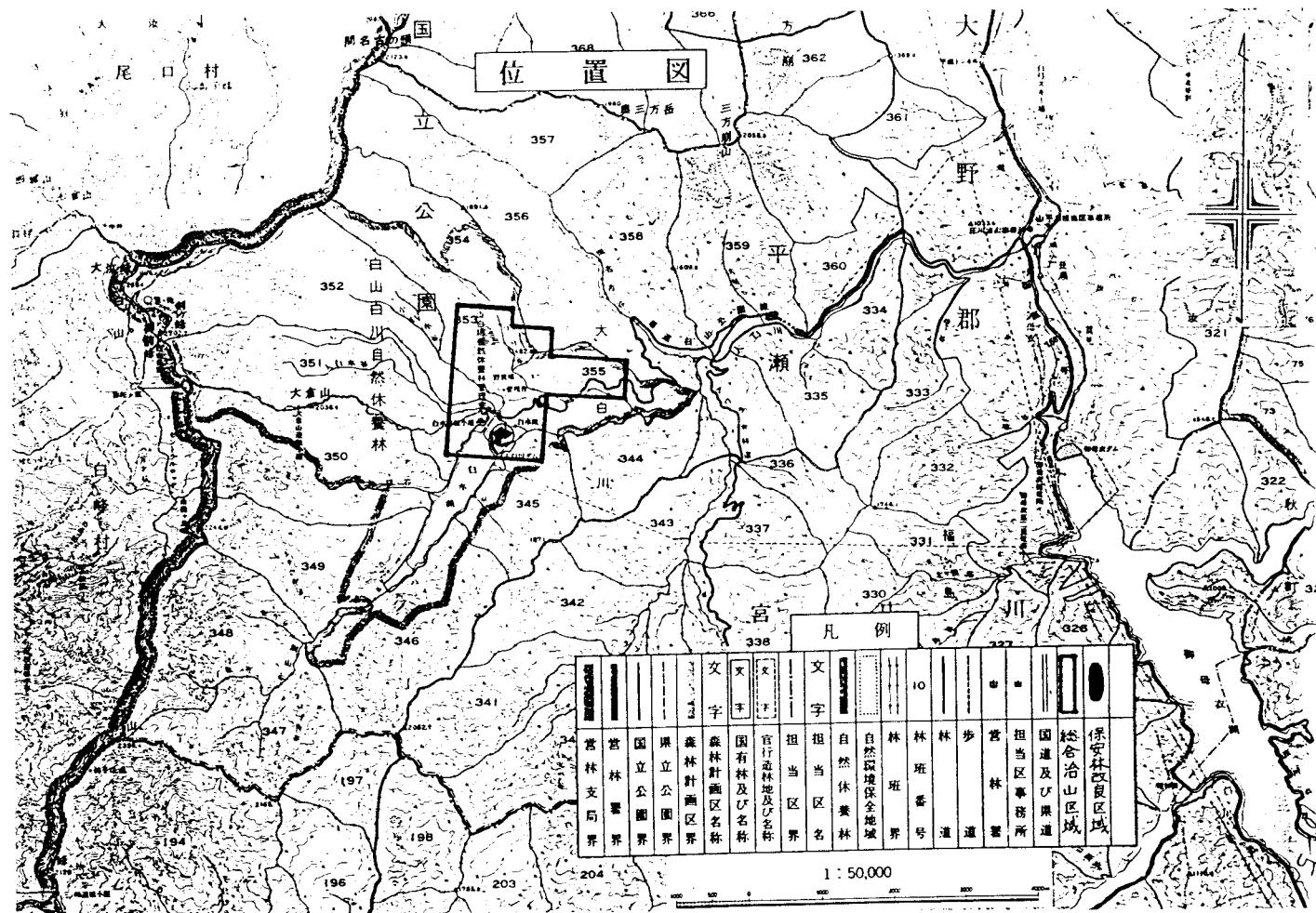
- (1) 木曽ヒノキ、ブナなど含め、大小の樹種は約17種で、林相は変化に富んでいる。
- (2) 野鳥の好む実のなる木の樹種は約7種あって小鳥のさえずりも楽しめる。
- (3) 白山の連なる大自然の山岳遠望と、白水の滝より下流の断崖絶壁の絶景が眺められる。
- (4) 散策路の整備によって、(1)～(3)の四季折々の変化が味わえ、保健休養、森林教室の場として大いに活用が期待できる。

6. おわりに

高山市をメイン会場として開催された「'88飛騨高山、食と緑の博覧会」とタイアップして昭和63年10月に「白川小学校下みどり子供会」ら関係者150人の参加を得て、「森林祭」を実施し、施工地の紹介をした。

また当施工地を訪れる人は年間4万人で、年々増加しており、その人々の治山事業の関心を高めると共に、自然環境の保全と保健休養機能を配慮しつつ、今以上に自然に親しみ、安らぎが得られる森とするため、地域社会の理解と協力を得ながら、保安林改良事業の整備、拡充を図っていきたいと考える。

図-1 位置図



表－1 整備対象林分の現況と整備方針

区分	現況特性	整備方針
A タイプ	ダケカンバ(15m)を主林木とする広葉樹2次林で、構成樹種は陽樹が多い。 高木層から林床植生まで多層構造が形成されているが、低木層以下がやや過密な状態である。	① 亜高木～低木層の根曲がり、折損木などを中心に、およそ20%の立木整理と、全域の地捲えを行って高木～低木まで、バランスのとれた林分構造へ導く。 ② 小苗を補植する。
B タイプ	高木層がほとんど欠除している広葉樹2次林。 亜高木(平均樹高3m) 低木層(平均樹高1.5m)の2層構造で、非常に密な状態である。	① Aタイプと同様に立木整理 50%、全域の地捲えを行う ② 高木層が欠除しているため、大苗(h-4.0m程度)を500本/haの密度で植栽し、波渦林型へ導く。
C タイプ	高木層は貧弱な広葉樹2次林。 亜高木層以下はBタイプと同様だが、雷圧による根曲がりや折損などの被害木が多い。	① 立木整理 30% 全域の地捲えを行う。 ② 大苗(h-4.0m程度)を300本/haの密度で植栽する。
D タイプ	ブナ ミズナラを主体とする極盛相に近い広葉樹林。 亜高木、低木層はあまり発達していない。	① 立木整理 20% 全域の地捲えを行う。 ② 小苗を補植する。
E タイプ	高木層はダケカンバ ドロノキが点在する程度の広葉樹2次林。 全体的に立木密度が小さく、疎林となっている。	① 地捲えは実施するが、立木整理は行わない。 ② 大苗 小苗を同時に植栽して、すみやかに林分形成を図る。植栽対象面積は、およそ 70%を目安とする。
F タイプ	ブナを主体とする極盛相に近い広葉樹林。 林縁部で亜高木、低木層はあまり発達していない。	① 立木整理 20% 全域の地捲えを行う。 ② 植栽は行わない。

写真-1



Bタイプ林相－施工前

写真-2



Bタイプ林相－施工後